

第114回 「ふくしま復興支援フォーラム」

日時 2017年8月3日(木) 18時30分～20時30分

テーマ 「なぜ不安は消えないのかー脳神経科学から見た福島原発事故」

報告者 伊藤 浩志 氏 (脳神経科学者)

【プロフィール】

元時事通信社記者。東京大学大学院博士課程修了。ストレス研究で博士号取得。

専門は脳神経科学、リスク論。科学技術社会論。

著書に近刊『復興ストレスー失われゆく被災の言葉』(彩流社)。福島市在住。

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」
大活動室1 MAXふくしま4F (福島市曾根田町1-18)
*入場無料、予約不要

【よびかけ人】 片岡正彦・今野順夫・齋藤紀・鈴木浩・中井勝己・真木實彦・渡邊純

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

(ブログ http://blog.livedoor.jp/tkonno_2012/)

(連絡先: tkonno67@gmail.com / 今野)

~~~~~

### 【「ふくしま復興支援フォーラム」開催のよびかけ文】

3月11日の東日本大震災によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所の「過酷事故(シヴィア・アクシデント)」はその後の福島の様相を一変させました。

福島の人々の健康と福島の大地を蝕み続けている放射能汚染の問題に対して、県民は絶えず事後的でしかも不確かな情報に翻弄され、混乱の度を深めながらこれまでの8ヶ月を経過して来ましたが、なお事態の収束に程遠いのが現状であります。

そのような状況の中でも、福島は今、放射能を恐れながら県民の健康と汚染されたふるさとの大地を取り戻すという、果てしなく続く困難でかつ重たい課題を背負いながら、一步一步前に進まざるをえない局面に立たされております。

課題は多面にわたり、かつ錯綜しておりながら、しかも、それらの解決無しには復興に向けての歩を進めることすら困難な状況に直面しております。

将来の復興を見通しながら、当面するこの困難な課題に対して、幅広い観点から自由な意見を交換しあい、一つ一つ問題を解きほぐし、一致点を模索していく必要性がますます強まっているように思われます。十分な仕組みを作ってからとも考えましたが、むしろ走りながら態勢の充実も図って行こうと決断した次第です。(2011.11.17)

~~~~~